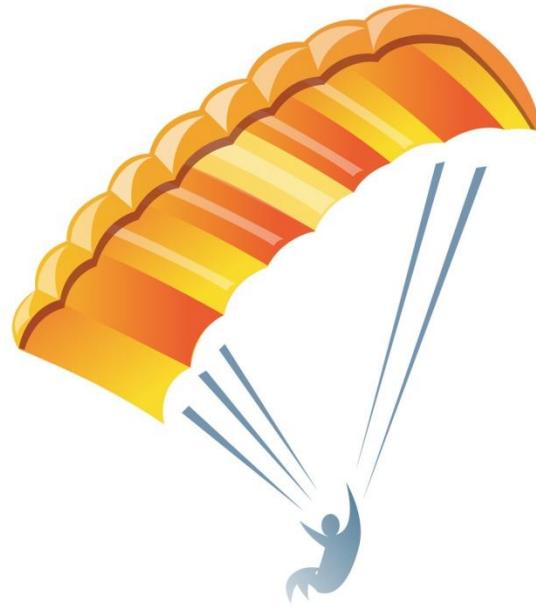


支え合いマップつくりと パラシュート体制の構築



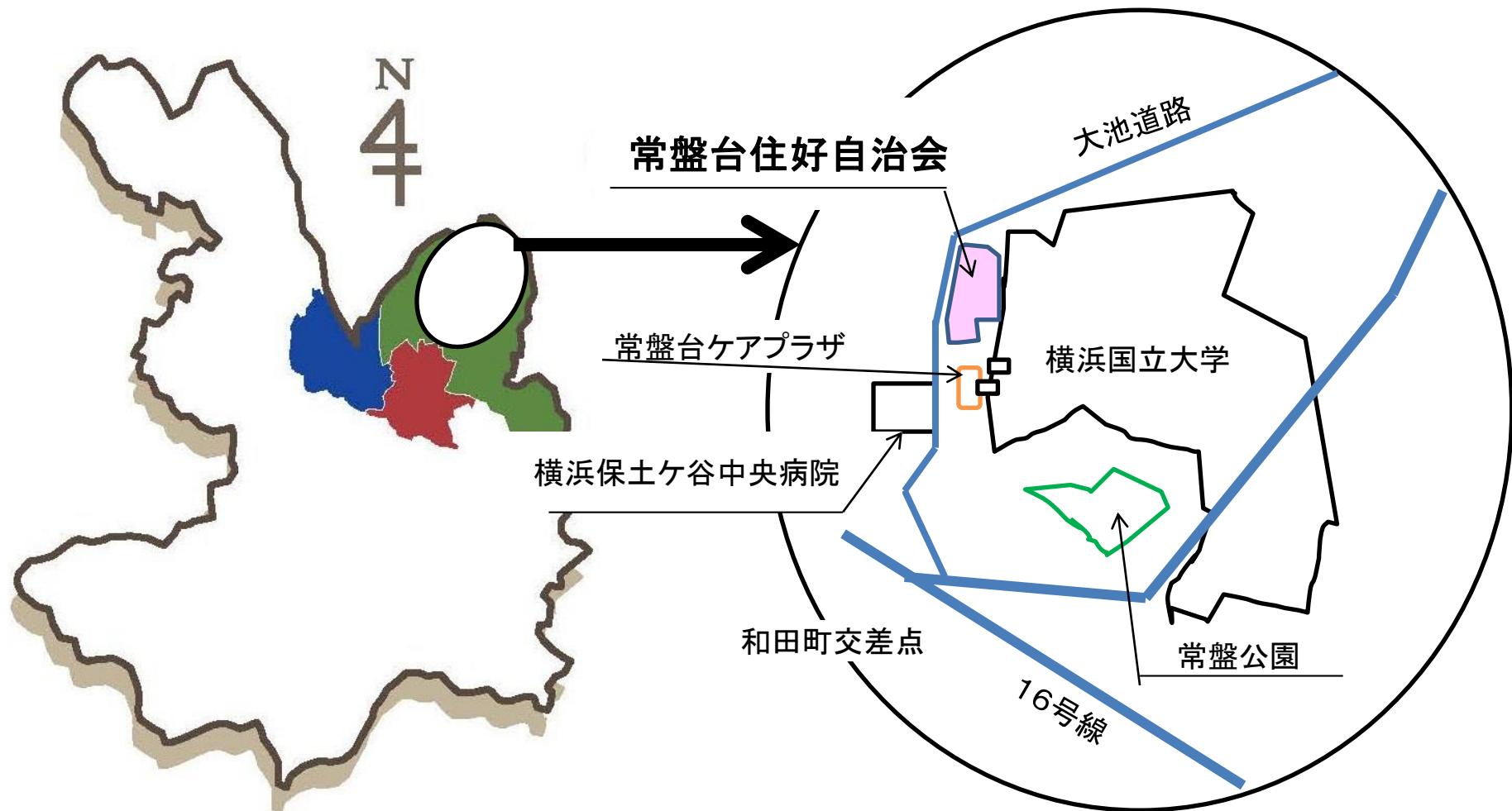
&



常盤台住好自治会のといくみ

I 常盤台住好自治会の紹介

常盤台地区連合町内会 常盤台住好自治会



常盤台住好自治会概要

- 1、昭和27年 11月 県営住宅42世帯 移住
- 2、昭和28年 4月 常盤台住好自治会発足
　　昨年60周年記念行事開催
- 3、世帯数 (平成27年 4月 1日 現在)

会員世帯	84世帯
賛助会員(学生)	31世帯
計	115世帯
地域内非会員世帯	3世帯
- 4、班・掲示板 5班、掲示板 1ヶ所
- 5、役員 会長 1名、副会長 1名、会計 1名、監事 1名
　　班長 5名、専門団体役員 8名、合計 17名
- 6、部会 防災・防犯部会、レク部会、福祉厚生部会
- 7、関連組織 すみよし会防災対策本部
　　情報連絡班 救護班 避難誘導／消火班
　　食料・物資班
- 8、会費 会員 4,000円／年、賛助会員 1,000円／年

II すみよし自治会防災のといくみ

No	活動内容	年度別経緯						
		H22年度 2010年	H23年度 2011年	H24年度 2012年	H25年度 2013年	H26年度 2014年	H27年度 2015年	H28年度 2016年
1	防災活動組織		防災実行委員会				防災・防犯部会	
2	防災ガイドブックの発行		企画・編集・発行・配布(全世帯)			ダイジェスト版発行(全世帯)		
3	防災カードによる会員状況の掌握	企画・編集・発行・配布(全世帯)			防災カードの更新(1回／年)・全世帯			
4	支え合いマップ	住好役員勉会	★ 国大ワークショップすずの会セミナー		すみよし 支え合いマップ作成会(1回／年)			
5	救急救命力カプセル	◎ 住好自治会導入検討、少量の為高価格のため断念	連町導入準備		すみよし、カプセル実施＆更新 1回／年			
6	パラシュート体制 要援護者支援体制	すみよし パラシュート体制構築			支え合いマップ作成会 1回／年			
7	要援護者安否確認	常小防災拠点避難訓練でパラシュート体制安否確認			パラシュート体制安否確認すみよし方式検討＆実施			

III 地域防災活動のベンチマーク

動機 自治会として防災に対する備えはこれでいいのか？(H22年当時)

年に2回防災訓練(連町と近隣自治会)を行い、公園倉庫には、水・非常食・防災資機材があつたが、自治会として発災した場合どうするか決まってなかつた！

模索 どうしたらしいいのか悩む？

- ① 連町の先輩会長に聞く
- ② テレビ・新聞・雑誌・インターネットの地域興し、防災関係をよく見た。
- ③ 区の防災行事に参加した(他の地域では何をしているか)

行動 「いいこと」で出来ることからやろう(ベンチマーク)！！



IV 事例発表

1. 防災連絡カードで地域の実態掌握（「地域のつどい」から！）

○ 地域の実態を掌握したい！

- ① 災害時要援護者を掌握し、事前に手を打ちたい
- ② 発災時、安否確認の名簿が欲しい
- ③ 独りの時に急病や事故があった場合、連絡先や救急対応に使いたい
- ④ 発災時、水や食料の配給数量決めの目安が欲しい

○ すみよし会 防災連絡カードを書いてもらった

- ① 個人情報なので、自治会長が保管し、緊急時以外は開示しない
但し 支え合いマップ作成に活用させてもらう
- ② 内容 家族構成・年齢・連絡先・災害時要援護者・病院・薬
- ③ メンテナンス 毎年新たに書き変えて提出してもらう

○ 行政の情報も活用します

- ① 災害時要支援事業 情報共有方式 申込
- ② 協定締結 個人情報研修 鍵がかかる収容場簿
- ③ 要援護者名簿受領

提出先 1班班長 ○○様

⇒ ○○ 自治会長

平成27年度 すみよし会 防災連絡カード

記入年月日

年 月 日

居住ブロック	班	世帯主氏名	
--------	---	-------	--

氏名	年齢	世帯主との続柄	緊急時の連絡先	独り暮し (70歳上)	昼間独り暮し (70歳以上)	要介助者	乳幼児

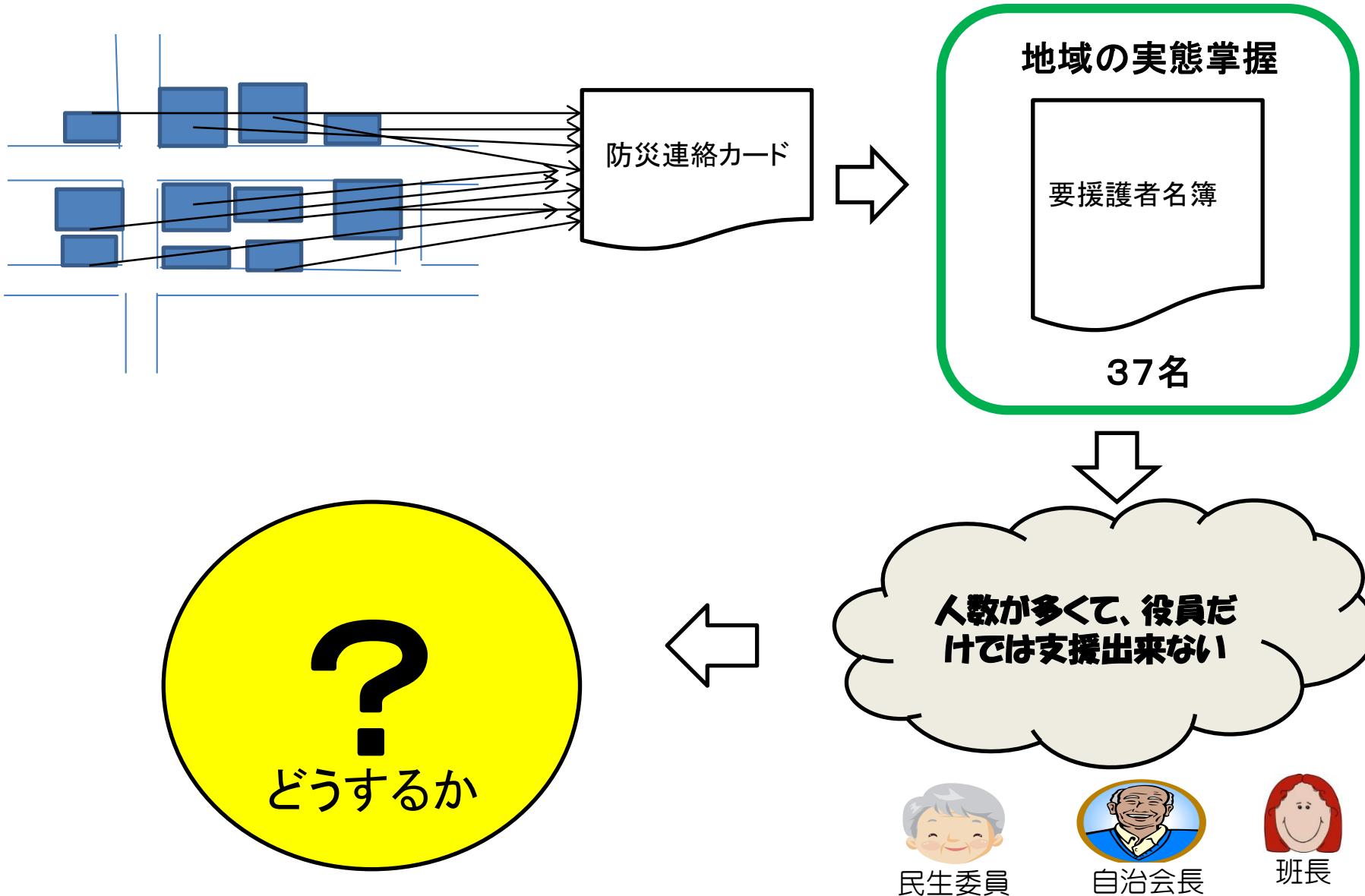
氏名	掛かりつけ病院	常用薬保管場所

※ ご記入いただいた個人情報は防災に関する緊急時、支え合いマップの作成以外には使用いたしません。
(自治会として避難援助・安否確認・支援物資支給・避難所対策に使います)

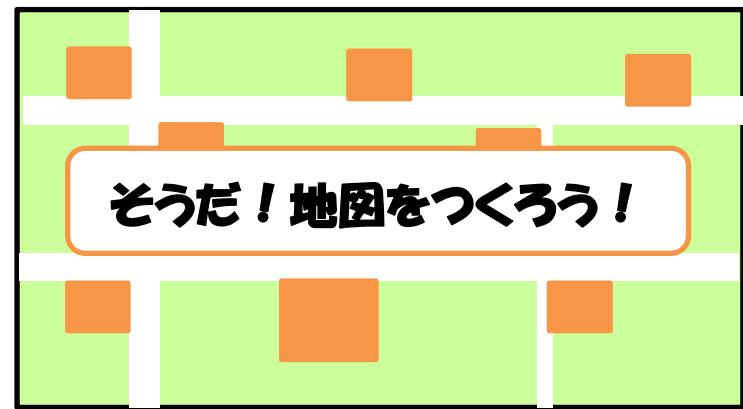
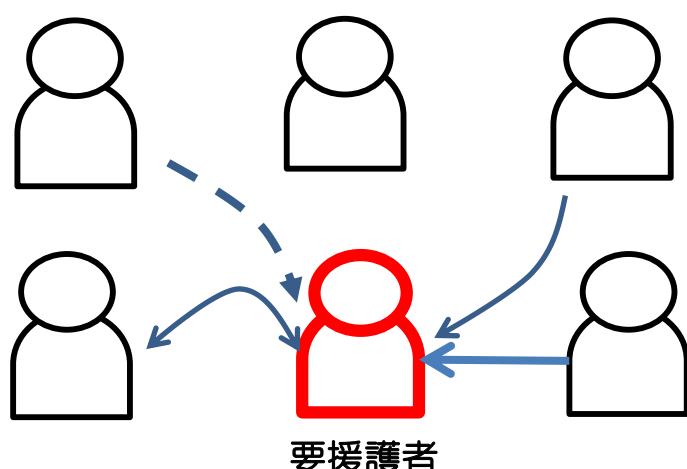
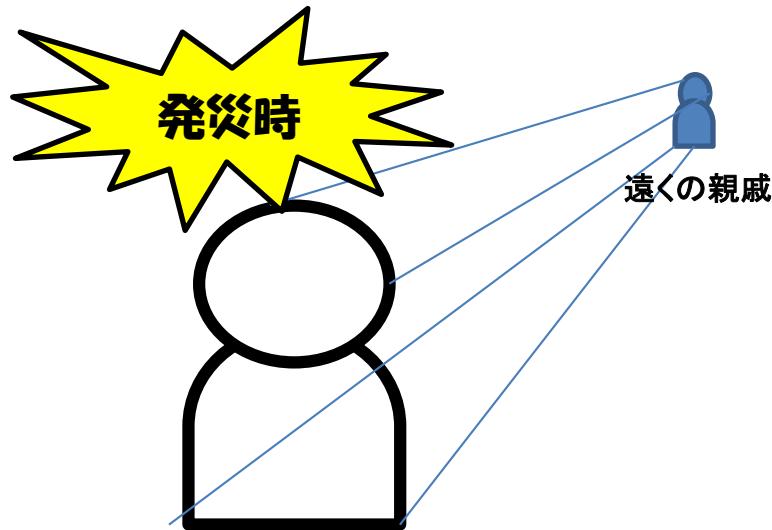
年1回程度で現況確認を予定しております。合わせてご協力をお願いします。
入っていた封筒に入れて、各班長さんへお届け下さい。

期限 月 日

2. 支え合いマップでご近所パワー活用(NHKテレビから！)



1 支え合いマップとは？



つながりを表そう！

2 支え合いマップ作成のステップ

1、グループ分け 対象地域を10世帯～20世帯単位に分ける

2、チラシを配る 作成会の案内と支え合いマップの目的・進め方の説明

3、地図つくり 対象地域の地図を模造紙大に描く(世帯名を記入)

4、当日説明 目的と作り方を説明する

5、作成 第1ステップ

○ 気になる人のシールをマップに貼る(要援護者)

① 独り暮らし・日中独り暮らし

② 要介助者(妊娠婦・高齢者・身障者・傷病者)

③ 乳幼児

④ その他

○ 支える人のシールをマップに貼る(支援者・人財さん)

2 支え合いマップ作成のステップ

6. 作成 第2ステップ

○ 今までの関わり合いを線で結ぶ(黒の矢印線)

- ① 直接的な関わり合い →
声掛け・訪問・お裾分け・井戸端会議・相談相手
お茶飲み会・囲碁将棋・趣味の誘い・
- ② 間接的な関わり合い →
見守り・新聞受け・雨戸・洗濯物

7. 作成 第3ステップ

○ これからすすめたい関わり合いを線で結ぶ(赤の矢印線)

- ① 直接的な関わり合い →
声掛け・訪問・お裾分け・井戸端会議・相談相手
お茶飲み会・囲碁将棋・趣味の誘い・
- ② 間接的な関わり合い →
見守り・新聞受け・雨戸・洗濯物

2 支え合いマップ作成のステップ

8. 作成 第4ステップ

○ この地域の課題を出そう

- ① この地域で困っていること
- ② 問題を抱えているお宅

○ この地域の人財さん

- ① 趣味の達人 ② 看護師・介護士 ③ 教師
- ④ 調理師・栄養士 ⑤ 民生委員・安心訪問員
- ⑤ 世話焼きさん

9. 作成 第5ステップ

○ この地域の課題の解決方法を考えよう

- ① 気になる課題をリストアップ
- ② 解決策を話し合う
- ③ 人財さんに活躍してもらう場を設ける
- ④ 地域のサロンを広げる

3 支え合いマップ 凡例－1

○ 要援護者と支援者

	分類	男性	女性
要援護者	独り暮らし高齢者(70歳以上)	 常盤太郎	 常盤春子
	昼間独り暮らし高齢者(70歳以上)	 峰岡次郎	 峰岡夏子
	要介助者(高齢者・妊産婦・身障者・傷病者)	 和田三郎	 和田秋子
	乳幼児	 星川四郎	 星川冬子
	その他	 釜台五郎	 釜台花子
	サポーター	岡沢六郎	岡沢陽子
支援者	地域の人財	 民生委員 峰沢七郎	 カラオケ名人 峰沢ひばり

3 支え合いマップ 凡例－2

○ 関わり合いの線

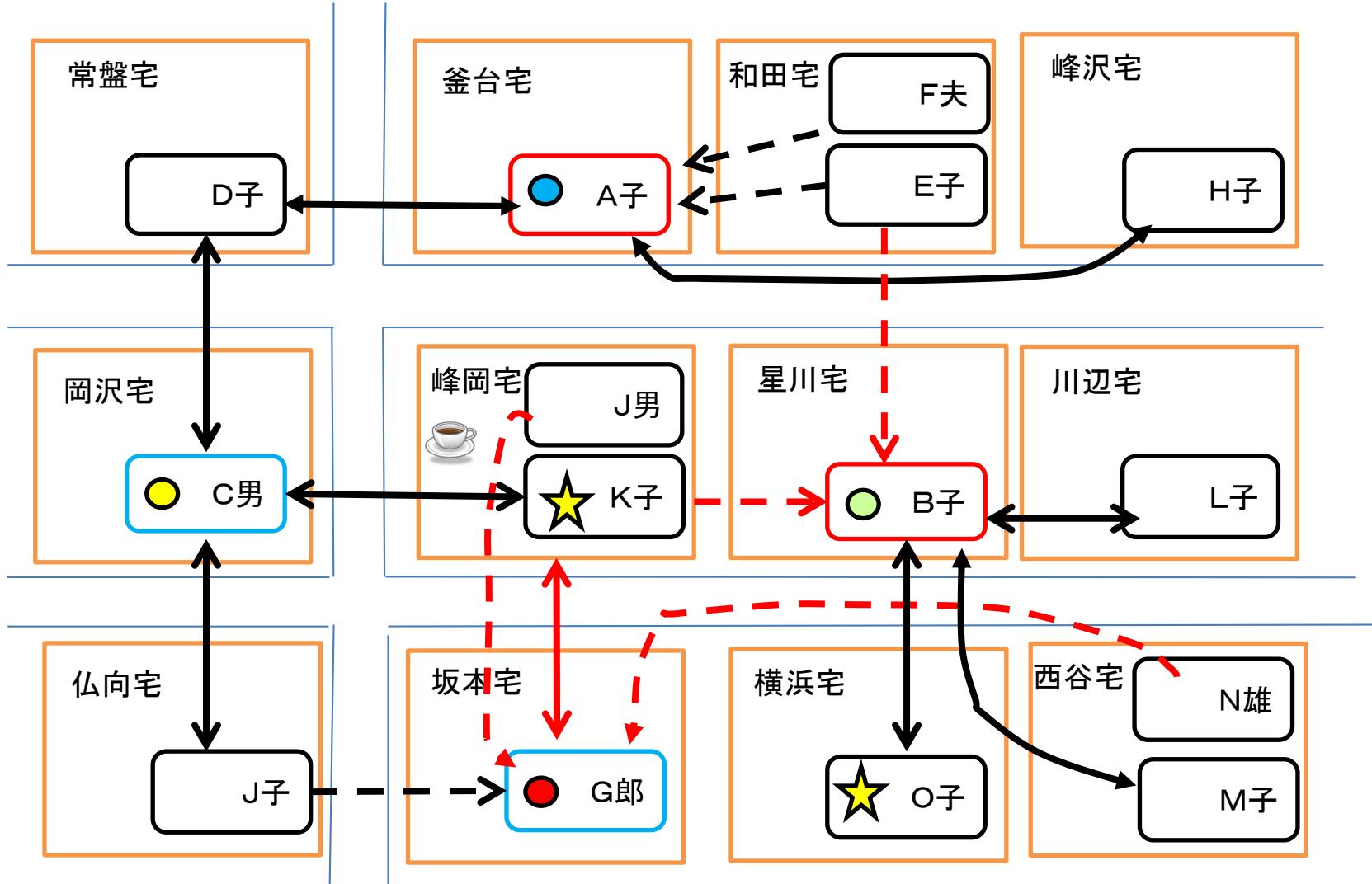
関わり方		これまで	これから
直接的関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛け・訪問 ・お裾分け・井戸端会議 ・サロン 	↔	↔
間接的関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り 新聞受け、洗濯物 雨戸 	→	→

○ 交流の場

		これまで	これから
サロン	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶飲み会・囲碁将棋 ・趣味の集い ・相談 		

4 支え合いマップ作成

要援護者を中心に見た場合 ⇒ 要援護者と支援者の関係が具体的にわかる



4 支え合いマップ作成



各班に分かれてマップつくり (平成26年9月28日 常盤台ケアプラザ)

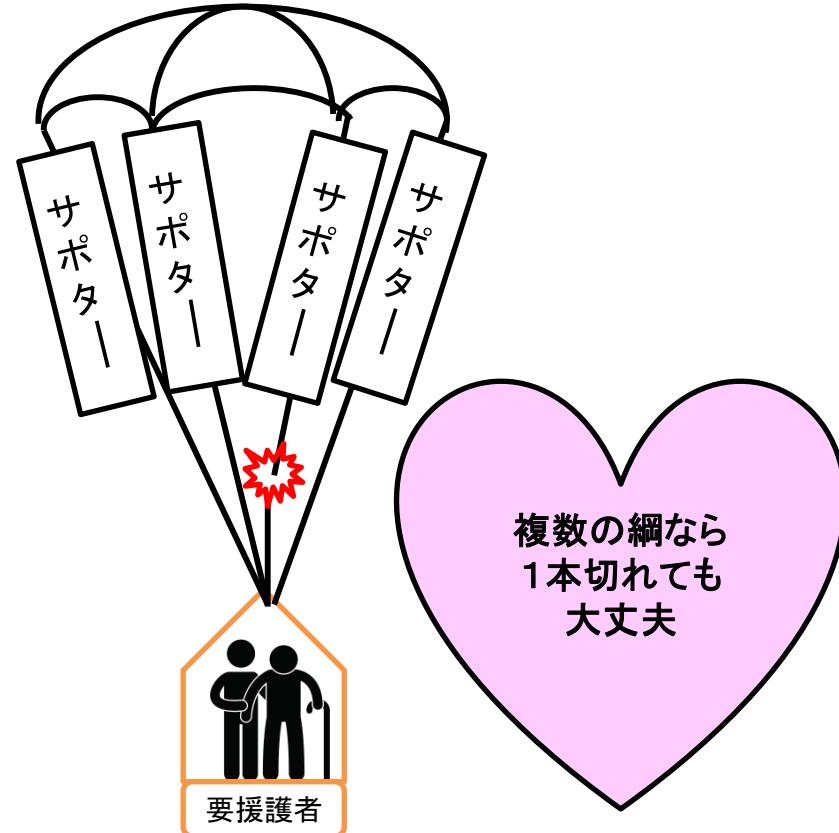
4 支え合いマップ作成



各班のマップを発表 (平成26年9月28日 常盤台ケアプラザ)

2. パラシュート体制(友人・元小学校校長の話から！)

マップでできた関わり合いを防災支援に活かせないか？



要援護者を支援するサポーターを決めていても、発災時、近くにいる保証はない、そこで複数のサポーターを決めておく必要がある

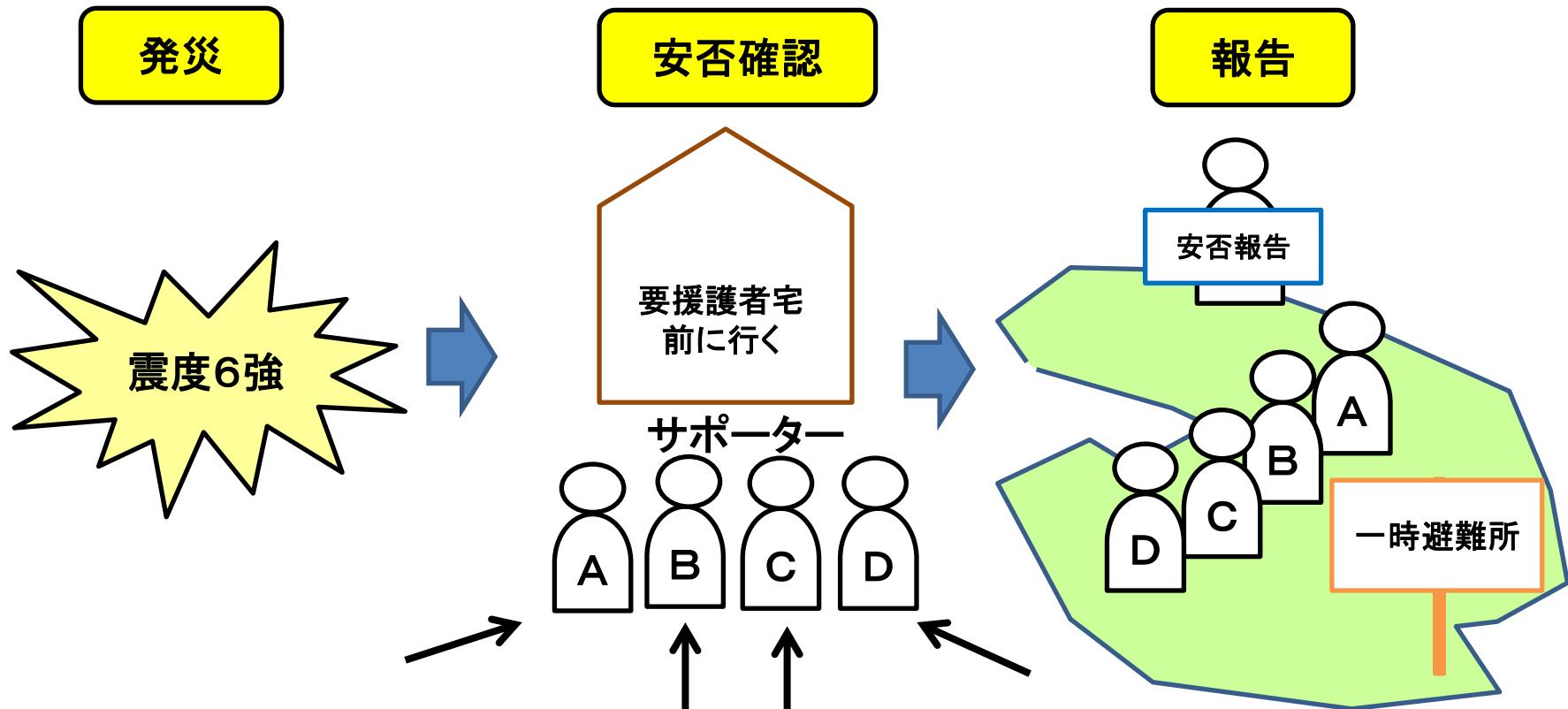
3. パラシュート体制で安否確認

パラシュート体制を実効あるものにしたい ！



防災訓練で要援護者の安否確認をしよう ！

平成26年10月19日(日) 常盤台小学校防災拠点防災訓練



H27年度 すみよし防災パラシュート体制表

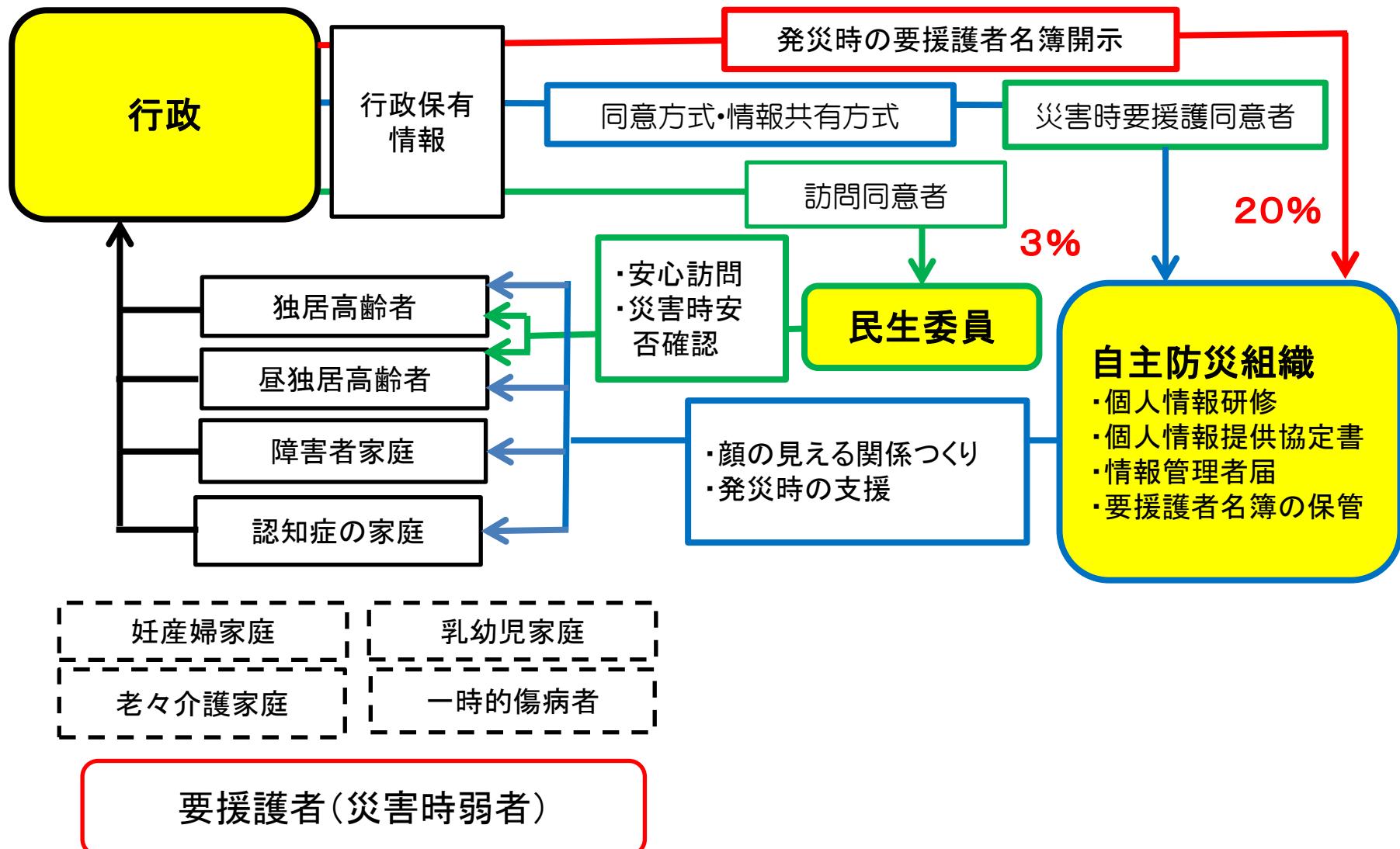
災害時要援護者を支援するサポーターを、予め複数(3~5人)決めておき、発災したら先ず自分と家族の安全を確保してから、要援護者の避難サポートをしてもらう。(サポーターの優先順位はなくその時サポートできる人がする)

第1班

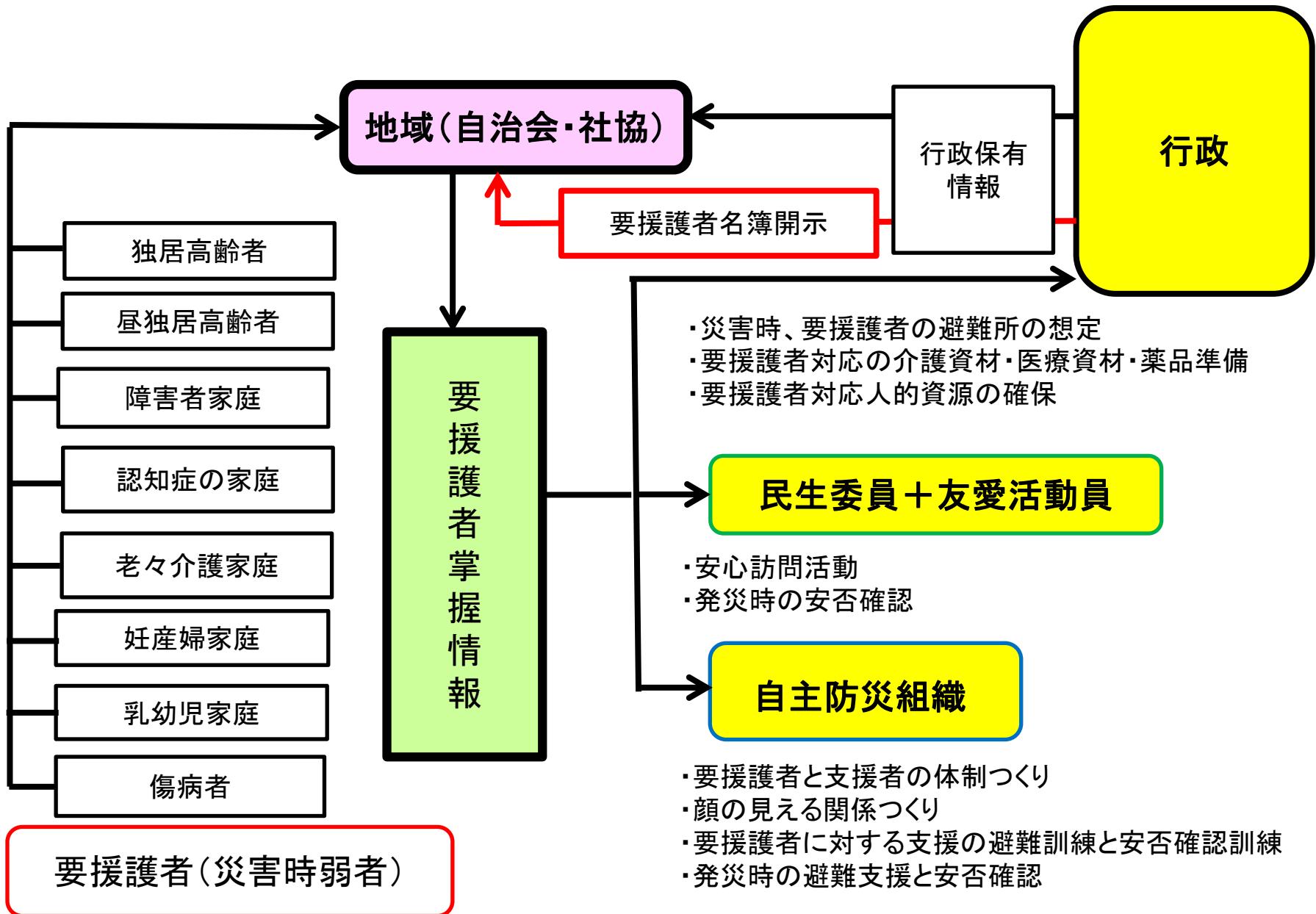
要 援 護 者	氏名	釜台A子	岡沢C男	星川B子			
	高齢者(80歳以上)	○					
	独居高齢者						
	昼独居高齢者						
	乳幼児(5歳以下)		○				
	要サポート			○			
サ ポ ー タ ー	氏 名	1	常盤D子	仏向J子	川辺L子		
		2	峰沢H子	峰岡K子	西谷M子		
		3	和田F夫	常盤D子	横浜O子		
		4	和田E子		峰岡K子		
		5			和田E子		

▽ 災害時福祉の視点を変えた

1、従来の災害時要援護者対応の流れ

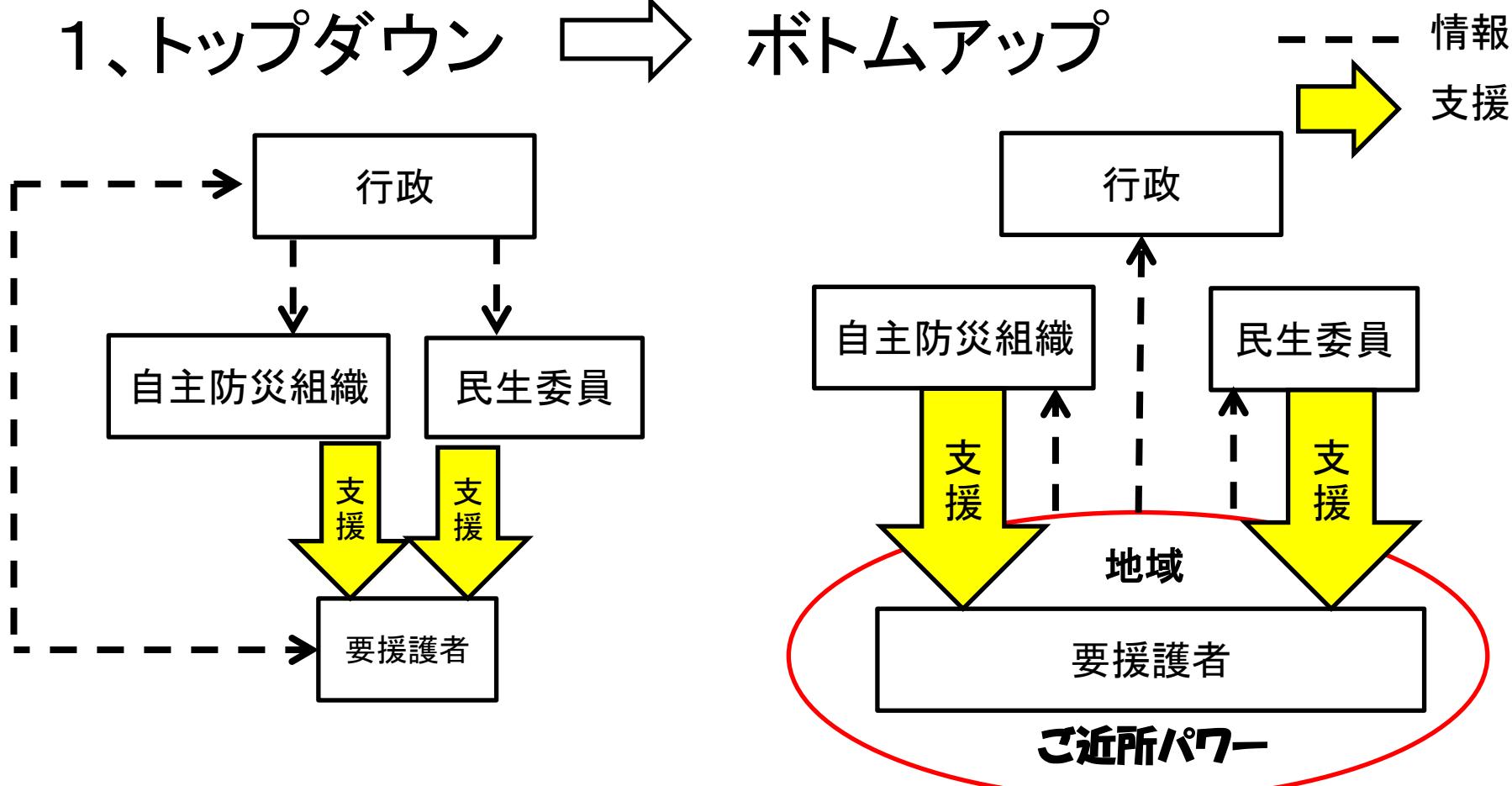


2、要援護者対応のあるべき姿こうではないか！



3、ご近所パワーの活用が災害福祉の鍵

1、トップダウン → ボトムアップ



- ・独居高齢者・要介護3・障害3級など対象者が限定されてくる
- ・本人の同意が必要なため、限定されてくる
- ・個人情報の為、摘要方法や管理が面倒くさい
- ・震度5以上の発災時に名簿の全面開示があるが遅い

- ・要支援者の設定が地域に任されるので幅のある対象者が掌握できる
- ・ご近所情報のため、個人情報の枠が無い
- ・ご近所情報で、いろいろな情報が掴める
- ・事前に多くの援護者対策が出来る
- ・

苦労したこと

1、役員、会員に手間をかける

今まで、何もしなくて良かったのに、いろいろ面倒なことを役員や会員にやってもらわなければならない。

- ① 先楽後憂より先憂後楽でいこう
- ② 東日本大震災で、防災訓練を日常化していた地域は犠牲者が少なかった

2、個人情報・プライバシー問題が壁に

趣旨は分かるが、防災カードや支え合いマップによって、個人情報やプライバシーが問題にならないか心配だ

- ① 基本的には、個人情報が流出しないように管理する
- ② みんなが知っているご近所情報はプライバシーではない。
- ③ 究極は災害時要援護者の支援と個人情報とどちらを優先するか

3、ミドル層(30歳代～50歳代)がのらない

子育て、共働き、仕事も忙しい、その上で地域まで気が回らないしかし、子供に関係することには、積極的に参加する

- ① 通常時の地域参加は無理でも、非常時には参加してもらう
- ② 子供達も地域で守る体制に取組んでいきます。

苦労したこと

4、やりたいことを具体化する

初めての試みが多く、会員のみなさんがやってくれる
レベルにしたい

- ① 役員会でトライしながら、試行錯誤を繰り返した
- ② 分かりやすい手引きを作った。

5、長続きさせたい

最初は珍しいので、興味本位でやるが、継続していくのは難しい

- ① 自治会のルーチン行事にした。
- ② 自治会全員で、期限を決めて取り組んだ

よかったこと

- 1、 マップ作成会で普段近くに住んでいても話し合う機会がないので1ヶ所に集うだけでも意義があった
- 2、 マップ作成で、関わり合いの少ない要援護者が明確化し対応策が打てた
- 3、 マップ作成会で要援護者から、「支援体制が出来て安心した」との声があった
- 4、 隣近所に、いろいろな人財さんがいることが分かった

今後の課題

- 1、より「リアルな要援護者支援訓練」にしていきたい
- 2、防災活動にミドル層(30歳代～50歳代)の参加を増やしたい
- 3、パラシュー体制に学生を参加させたい
中学生
高校生
大学生
- 4、安否確認の見える化
- 5、近所にいる人財さんに地域活動で活躍してもらう

ご静聴ありがとうございました